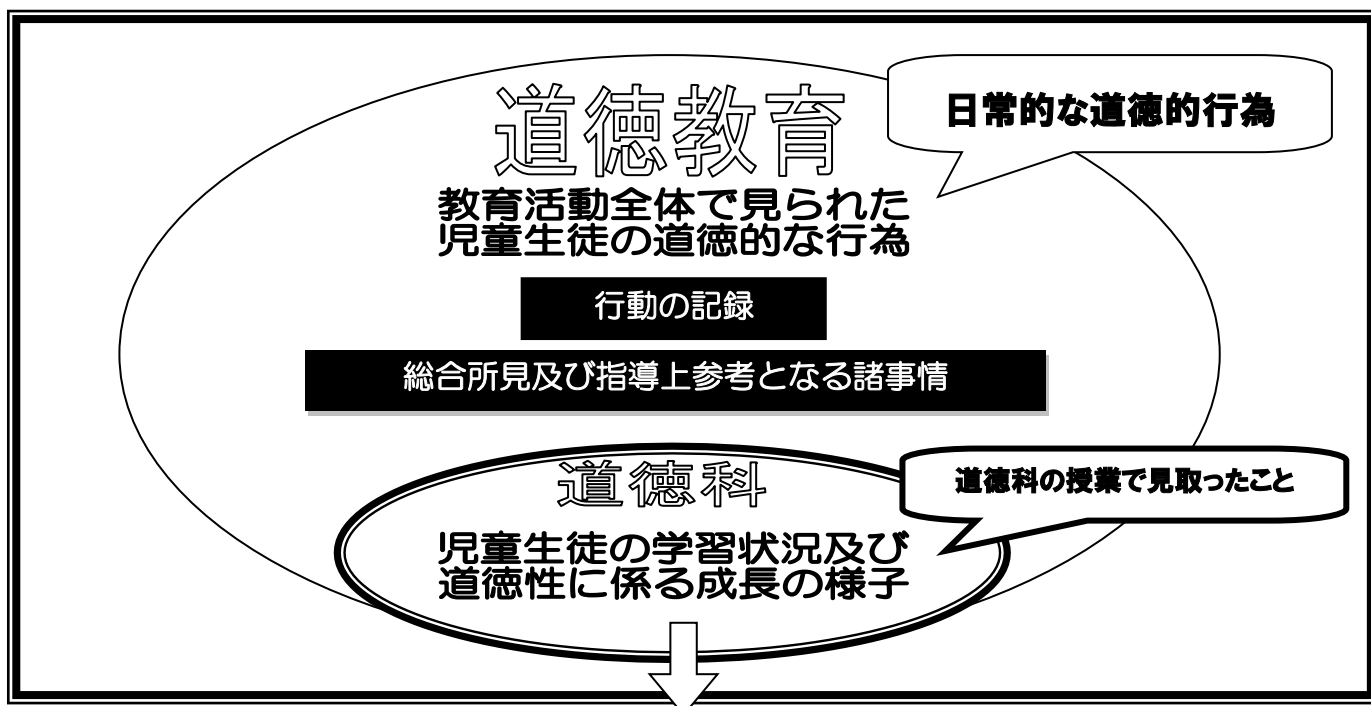


## Q6 道徳科の評価はどのようなものでしょうか



児童の道徳性については、人格全体にかかわるものであるため評価はしません。  
道徳科の目標に基づき、学習状況と道徳性にかかる成長の様子を評価します。  
ただし、数値などによる評価は行わないものとします。

### 1. 道徳教育と道徳科の評価



今まで行動の記録に記載していたことは、道徳教育全体を通しての児童生徒の育ちです。  
道徳科の評価は、「道徳科の授業」を長期的に見て、児童生徒の育ちを評価します。

### 2. 評価の意義

児童生徒にとって

自らの成長を実感し意欲の向上につなげていくもの

教師にとって

指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

※個々の児童生徒の成長を促すとともに、それによって自らの指導を評価し、改善に努めることが大切

### 3. 道徳科の目標

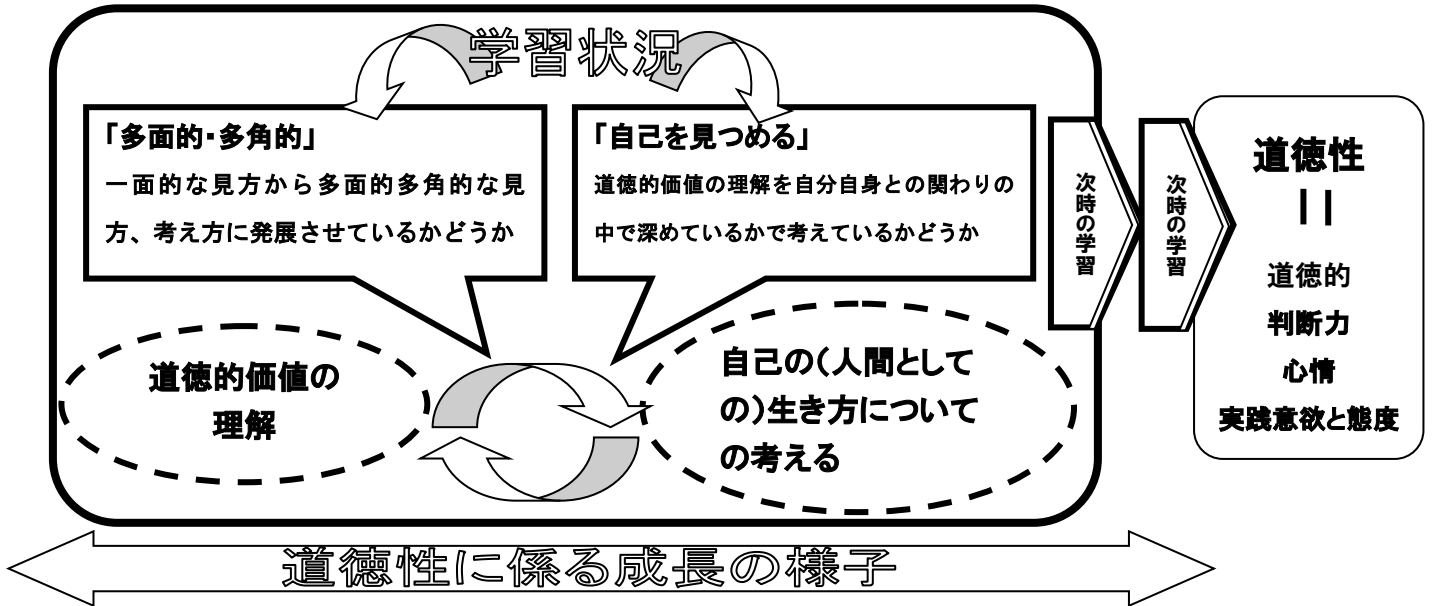
道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

★道徳性とは・・・人間としてよりよく生きようとする人格的特性  
(道徳的判断力 道徳的心情 道徳的実践意欲と道徳的態度)

#### 4. 道徳科の評価と評価の視点

児童の**学習状況**や**道徳性に係る成長の様子**を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値による評価は行わないものとする。

道徳科1時間の学習



#### 評価の視点となりうる7つの例

**「多面的・多角的な見方・考え方」**（一面的な見方から多面的多角的な見方、考え方に発展させているかどうかを見取る）

- (1) 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることに着目する。
- (2) 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていることに着目する。
- (3) 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしていることに着目する。

**「自己を見つめる」**（道徳的価値の理解を自分自身との関りの中で深めているかどうかを見取る）

- (4) 教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目する。
- (5) 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる部分に着目する。
- (6) 道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解をさらに深めていることに着目する。
- (7) 道徳的価値の実現の難しさを自分のこととして捉え、考えようとしていることに着目する。

授業を行うときに、上記のような視点を持ち、評価をします。また、視点は、教材の特徴を生かして、より詳しい表現に変えることが望ましいでしょう。

長期的に見取った中で、突出していたところのよさや、学習の進捗状況について評価として記述しましょう。



## 5. 1時間の授業での評価のみとり方

1時間の授業の中では、次のように評価を設定して児童の学習状況を見取ることが考えられます。学期ごとに評価を行う際は、1時間の授業で見とれた場面だけでなく、学習を数時間積み重ねたものを大きくりなままとまりとして捉え、児童の成長のようすとして記述します。

### 4年生の事例

主題名            みんな大切な考え    B（9）相互理解  
 教材名            学級会でのできごと（光村図書）  
 ねらい            相互理解について考えさせ、異なる意見に耳を傾けながら話し合いをしようとする実践意欲と態度を育てる。



### 本時の評価の視点

**視点（2）**    他者と話し合う中で、他者理解の難しさや必要性、周りを気にする弱さなど、さまざまな考え方を理解しようとしている。

**視点（5）**    自分とは異なる意見をもつ人に対して自分はどんなふうに振る舞っているか、自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。

## 8. 本時の展開

時間	学習活動 ○主な発問◎中心発問 ・期待する児童の反応	・指導上の留意点と☆評価
導入	○学級会をしたときに困ったことはありませんか。（学級会はどんな会ですか？）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会についてのイメージを思い浮かべ、教材について興味をもてるようにする。</li> <li>・意見を1つにまとめることが難しいといった意見が出た場合には、展開での揺さぶりの補助発問につなげたいのでみとめる。</li> </ul>
展開	1. 「学級会でのできごと」の読み聞かせを聞き、感想を話し合う。  <b>問題意識をもつ</b> ○登場人物の言動で、どうしてだろうと思ったことはありませんか。 ・なぜみんなはよしきと同じ意見になったのかな。 ・なぜまさとはドッジボールに決めようとまとめたのだろう。 ・なぜみんな黙っていたのだろう。 ・なぜあずさは途中で意見を変えたのかな。 ・なぜさとみは言いたいことを言えなくなってしまったのかな。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの登場人物が出てくるため、混乱しないように事前に紹介しておく。</li> <li>・どうしてだろうと思ったことを読み聞かせの後に聞くと伝え、読みの視点を持ってもらう。</li> <li>・それぞれの人物の問題点を数多く上げることが予想されるが、最終的には「学級会」での話し合いがうまくいっていないということについて触れることで、問題点を焦点化する。</li> <li>・みんなが黙ってしまうような学級会はなぜいけないのかを問い返し、共通の問題意識につなげられるようにする。</li> </ul>

	<p>どうすれば、みんなだまらずによりより話し合いができたのでしょうか</p> <p>○学級会の間、みんなはどんなことを考えていたのでしょうか。いろいろな立場から考えてみましょう。</p> <p><b>問題の解決を図る</b></p> <p>◎どうすれば、みんなだまらずによりよい話し合いができたのでしょうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多い意見に流されない</li> <li>・友達の話をしっかりと聞く</li> <li>・友達の考えを前向きに受け止める</li> <li>・批判しない</li> <li>・自分と異なる意見も聞く</li> <li>・自分の考えに自信をもって話す</li> </ul> 	<p>・道徳ノートに学級会の様子の挿絵を貼り、それぞれの登場人物の吹き出しに考えを書く。短い言葉で書くように声をかけ、話し合いの時間を確保できるようにする。</p> <p>・<b>友達とそれぞれの立場の思いを交流し、多面的・多角的に考えられるようにする。</b></p> <p>・あずさだけでなく、よしきやクラスのもみんなも楽しいドッジボール集会を行いたいという思いがあることにも触れ、「あずさがかわいそう」というような流れにならないように留意しておく。</p> <p>・少数意見を大切にするという意見ばかりが出たときは、導入で話題に出た意見をまとめる難しさについて問い返し、より深い視点で問題について考えることができるようにする。</p> <p>・グループで話し合い、大切だと思うことをキーワードにしてホワイトボードに書く。</p> <p>☆他者と話し合う中で、さまざまな考え方を理解しようとしている。視点（2）</p> <div data-bbox="877 1164 1412 1467" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>ひとつ前の発問で、学級会に参加している登場人物それぞれの思いを、学級の友達同士で様々な視点から考えられるようにしているので、多面的・多角的な気づきについての評価を設定しています。</p> </div>
<p>展開</p>	<p><b>価値を自分との関わりで考える</b></p> <p>2. 学習したことをもとに、今までの自分の生活を見つめなおし、今後の生活について考えてみましょう。</p>  <div data-bbox="438 1758 1396 1915" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>導入でのアンケート結果にもう一度触れて今の考えと比較したり、中心発問に対する考えなどをたよりにしたりして、これまでの自分から、これからの自分についてどう生かしていくのか考える場面になります。</p> </div>	<p>・今までの自分の経験を交えたり、友達の意見で変容したりしたことが書けるように促す。</p> <p>☆自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直している。視点（5）</p>
<p>終末</p>	<p>・教師の説話をする。</p>	<p>教師の体験を語り、余韻をもって終わる。</p>